

# 平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	建設技能資格取得を活用した若者の再就職、起業のための教育プログラムの実践とキャリアアドバイス		
法人名	学校法人 浅野工学園		
学校名	浅野工学専門学校		
代表者	浅野 久彌	担当者 連絡先	加藤 直樹
<p>1. 事業の概要</p> <p>バブル経済崩壊後の日本の企業では大手、中小問わず若者の就職難が続いてきた。ここに来て、経済状況の回復とともに就職状況も好転し売り手市場の活況を呈してきた。しかし、就職難時代に若者自身の望む分野の企業に就職できず止むを得ず他分野への就職を余儀なくされた者や自身望んだ企業であったが働いてみたら水に合わず企業とのミスマッチにより離職する者がある事は事実である。本事業では、神奈川県内18～35歳程度の離職者で建設に関心のある若者をハローワーク横浜（横浜公共職業安定所）の協力を得て10名程度募る。「手に職（技）を就ける」ことにより「一専多能」となりうる若者の人材育成のため、学生や社会人の職業教育に精通している全国建設産業教育訓練協会の協力を得て「建設車両系技能資格」の取得と建設作業従事のための必要知識を得るため、専門学校を活用した講座「施工法一般」の専門的職業知識を習得することにより再就職、近未来的には起業への道を開拓できるよう教育プログラムを実践する。受講者ヒアリングとして、本講座受講前に離職した理由や本講座を受講して得たい事柄などを調査し、さらに習得過程や再就職に向けたキャリアアドバイス・就職支援や再就職後の定着状況も調査しフォローアップを行う。また、本事業は「建設技能資格」を取得し、実務的に専門的職業知識「施工法一般」を習得でき再就職につながるという画期的事業である。本事業を実施することにより、次年度以降、大阪、福岡など各地域へ本事業成果を発展させたい。</p>			
<p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>1 目的・重点事項の達成状況</p> <p>本事業は、平成20年度専修学校を活用した再チャレンジ支援事業（若者の再チャレンジ支援プログラム）で、「建設技能資格取得を活用した若者の再就職、起業のための教育プログラムの実践とキャリアアドバイス」として行った。</p>			
<p>2 事業により得られた成果</p> <p>キャリアアドバイス講座(1), (2)では、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 受講意思決定の資料、職務経歴の確認。</li> <li>2 求人企業情報に対する本人のキャリアの活路と可能性の確認。</li> </ol> <p>「建設車両系技能資格」取得実技訓練を8日間にわたり富士教育訓練センターで実施した。</p> <p>「建設技能資格取得を活用した若者の再就職、起業のための教育プログラムの実践とキャリアアドバイス」として行った。その要点は、次のとおりである。</p> <p>「建設車両系技能資格」取得実技訓練を8日間にわたり富士教育訓練センターで実施した。</p> <p>キャリアアドバイス講座(3), (4)では、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本人が希望と可能性を感じる企業の選定と絞込み。</li> <li>2 仕事に対する知識、技能、態度を基本的にしっかり行うことの重要性等を論じた。</li> </ol> <p>キャリアアドバイス講座(5), (6)では、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 企業と社員が一体となって顧客と価値観の共有を目指すビジネスを展開している企業と関わりたい。</li> <li>2 業務を通して自分自身の能力向上と将来性を感じる企業等につき解説した。</li> </ol>			

キャリアアドバイス講座(7),(8)では、

- 1 企業情報から自分自身の将来性と人生像をイメージする。
- 2 以上につき、実践実証として企業訪問および可能性を含めたインターンシップを実現した。

キャリアアドバイス講座(9),(10)では、

経営環境が変化しても顧客満足度を追及し続けることができること、価値判断がぶれない競争力のある企業を選び、係わり合いをもち続けること等を力説した。

「施工法一般」の講座では、1イラスト、22級建築士、3施工管理技士につき知識レベルを深めた。

「施工法一般」(CAD実習)では、CADは初体験という実情をふまえ、講義の後も各自で練習が簡単にできるようにCADソフトで実習した。内容は、敷地測量図の書き方や木造の平面図コピーの線・線色等の決め方等を講義した。

受講者のインターンシップについて

「キャリアアドバイス講座」「施工法一般講座」を経て、建設業界での「インターンシップ」に入った。期間は2週間程度で、会社側と受講者本人との相性を探る機会とした。

### 3 今後の活用

現在の建設業を取り巻く変化として離職者の実態や将来的な担い手不足の現状、学校は卒業したがさまざまな理由で就職していない者が多く、ものづくりを支える「人づくり」に関して、建設業人材確保を改めて建設産業の現状を直視して、将来を真しに考えなければならない。そこで今回細部にわたってきめ細かな教育カリキュラムの構成に取り組んだ。

この事業を進める上で問題は「基本的には金銭のやりとり」、学校側が費用負担しての「資格取得」である。費用負担する場合でもその費用をどう捻出するかという問題が生じる。若者の再チャレンジ支援を円滑に進めていくためのネットワークや受け皿組織が無い現状でハローワーク、教員また学校のつながりや卒業生を通じた受け入れ確保に頼るしかないのである。バックアップの体制が整っていない現状は厳しい。しかし、今回の貴重な経験は将来へのステップのため、本事業のシステム化に大きく寄与するものである。よって、本事業の結果を基に、産、学、官のいっそうのご協力を要望したい。

なお、実務担当者の実感としては、社会人履修者の生活支援はとくに重要であり、安心して講義や実習に専念できる生活補助金の支給は喫緊の課題であり、各省間の高次の横断的対応が切望される。

### 4 次年度以降における課題・展開

#### ■若者の建設業界への関心

本事業で、ハローワーク横浜(横浜職業安定所)の協力を得て受講者を応募したが、2名の応募であった。事業内容として「建設車両系技能資格取得」「キャリアアドバイス講座」「施工法一般(施工管理、CAD実習)」「インターンシップ」「就職」「就職後のキャリアサポート」といった魅力ある内容であるにも関わらず2名の受講であった。

第2回実施委員会に若者の就職支援を行っているNPO法人ユウポート横浜(ヤングジョブ横浜)代表 岩永氏に参加願ひ「若者の就職観」を伺った。その内容は、就職はしたいが、「談合」「耐震偽装」のようにイメージが悪く、さらに「責任をとる仕事にはつきたくない」「チームプレーを望まない」「コミュニケーションをあまり取りたくない」「汚れる仕事は望まない」といった若者が多く建設業界への関心が低いという状況にあるとのことである。若者が就職先を探す際、会社の雰囲気や掴む為に「プチ体験」を行い、自分に合わない判断すれば、この「プチ体験」を繰り返すとの報告があった。若者にいかに「建設」で建物を造ることのすばらしさを伝え、建設業界へ就職者が増えるようにすると言う大きな課題があることが分った。社会では、若者が生きてきた時代・社会背景を無視した「自己責任論」がまだまだ根強く残っている。しかし、自己責任の部分だけを押し付けて若者が自立していけるかと言うとそれは非常に困難なことだろう。今考えなければいけないのは、前述したような段階的なサポートであり、若者が仮に失敗してももう一度学び直すことのできる「再挑戦できる社会」をどうやってつくっていくかということである。建設業界においても「業界の今を伝えること」と「再挑戦できる仕組み」を考えていくことによって若者の興味・関心はさらに高まっていくのではないかと考える。

社会では、若者が生きてきた時代・社会背景を無視した「自己責任論」がまだまだ根強く残っている。しかし、自己責任の部分だけを押し付けて若者が自立していけるかと言うとそれは非常に困難なことだろう。今考えなければいけないのは、前述したような段階的なサポートであり、若者が仮に失敗してももう一度学び直すことのできる「再挑戦できる社会」をどうやってつくっていくかということである。建設業界においても「業界の今を伝えること」と「再挑戦できる仕組み」を考えていくことによって若者の興味・関心はさらに高まっていくのではないかと考える。

#### 受講者のインターンシップについて

「キャリアアドバイス講座」「施工法一般講座」を経て、建設業界での「インターンシップ」に入った。期間は2週間程度で、会社側と受講者本人との相性を探る機会とした。

A受講生(36歳男性)は横浜市内での建設会社への就職を考えインターンシップを行った。将来は設計か、また施工管理につきたいという希望をもち、目指す資格は1級建築施工管理技士である。

B受講生(29歳男性)は藤沢市内の住宅基礎工事会社への就職を考えインターンシップを行った。将来は自営で戸建住宅の設計・施工をしたい。目指す資格は「2級建築士」である。成果:A受講生は、「鉄筋コンクリート造の施工管理」のインターンシップを行い、内容は、足場の組立、壁つなぎ、墨出など。また、配筋確認および検査も見学できた。作業場の安全管理のため、巡回の大切さがわかったという成果を得た。B受講生は、「鉄筋コンクリート造の施工管理」のインターンシップを行い、内容は、コンクリート打設前後における準備・養生、工事写真の撮り方など修得した。

#### 受講者の就職

受講者2名インターンシップ先で就職が決まった。

受講者は「キャリアアドバイス教育」を受け、将来的に「仕事は先生、職場は教室」、「見返り教育」といった「自立の勉強」を経て就職した。

今後、定期的な「キャリアサポート」を実施し「自立」の手助けを行っていきたい。

平成20年度実施予定の「建設技能資格」を活用した再就職支援を継続したい。内容については建物を造る喜びを得させるため、「玉掛け」、「小型移動式クレーン」、「ガス溶接」の3種の技能資格を習得させ再就職のチャンスを与えたい。また、本事業は「建設技能資格」を取得し、実務的に専門的職業知識「施工法一般」を習得でき再就職につながるという画期的事業である。本事業を実施することにより、次年度以降、大阪、福岡など各地域へ本事業成果を発展させたい。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### 1 履修証明書等

- ・「建設車両系技能資格」の取得
- ・「施工法一般」の講座
- ・「履修証明書」の発行

#### 2 カリキュラムの内容

「手に職(技)を就ける」と「建設知識」を習得させるため、「建設車両系技能資格」の学科として14時間(60分×14コマ)、実技27時間(60分×27コマ)を行う。講座として、建設分野の専門的職業知識として「施工法一般」を24時間(60分×24コマ)開講する。受講者ヒアリングとして、ハローワーク横浜(横浜公共職業安定所)の協力を得て募った受講者に対する離職理由などのアンケート調査をベースに、受講者に対し24時間(60分×24コマ)受講前に実施する、習得過程や再就職に向けたキャリアアドバイス32時間(60×32コマ)・就職支援を行い、さらに再就職後の定着状況も調査しフォローアップも行う。年度末には事業報告会を開催し、本事業成果を公表する。また、報告書、CD-ROMでの配布も予定している。

「建設車両系技能資格」の学科として、「走行に関する装置の構造及び取り扱い方法に関する知識」、「作業に関する装置の構造、取り扱い及び作業方法に関する知識」、「運転に必要な一般的事項に関する知識」、「関係法令」と実技として、「走行の操作」、「作業のための装置の操作」を行う。講座として、建設分野専門的職業知識習得のため「施工法一般」を行う。受講者ヒアリングとして、本講座受講前の離職した理由や本講座を受講して得たい事柄などを調査し、さらに習得過程や再就職に向けたキャリアアドバイス・就職支援や再就職後の定着状況も調査しフォローアップを行う。

- キャリアアドバイス講座(1)では、
  - 1当講座の主旨を受講者に事前説明及び選考のための面談。
  - 2受講意思決定の資料、職務経歴の確認。

- キャリアアドバイス講座(2)では、平成20年度「浅野工学専門学校生徒用求人票」にて、
  - 1本人希望と可能性、見込みのある企業の選定。
  - 2企業の詳細情報の収集。
  - 3求人企業情報に対する本人のキャリアの活路と可能性の確認。この2回のキャリアアドバイス講座(1)、(2)を経て、富士教育訓練センターにおいて「建設車両系技能資格」の取得が行われた。

- キャリアアドバイス講座(3)では、
  - 1本人が希望と可能性を感じる企業の選定と絞り込み。
  - 2企業詳細情報の比較検討。
  - 3募集業務内容に対する本人のキャリアとスキルが通用するか、やる気と興味の高揚。

- キャリアアドバイス講座(4)では、
  - 1建設系企業情報と業界の現状について、将来に向けた可能性と自分自身の職務能力の開拓、業務能力向上の必要性を論じる。
  - 2仕事に対する知識、技能、態度を基本的にしっかり行うことの重要性を論じる。

- キャリアアドバイス講座(5)では、
  - 1価値観の共有について。
  - 2企業と社員が一体となって顧客と価値観の共有を目指すビジネスを展開している企業と関わりを持ちたい。

- キャリアアドバイス講座(6)では、
  - 1顧客満足を積極的に推進している企業とは。
  - 2社員の可能性と能力向上に重点を置いている企業とは。
  - 3業務を通して自分自身の能力向上と将来性を感じる企業とは。

- キャリアアドバイス講座(7)では、
  - 1企業情報から詳細なビジョンや経営方針を読み取れるか。
  - 2企業情報から自分自身の将来性と人生像をイメージする。
  - 3そのイメージの実現実行の可能性はどうか。
  - 4人生設計とやりがい、価値観の共有と自己の向上心が感じられるか。

■キャリアアドバイス講座(8)では、  
1キャリアアドバイス講座(1)～(7)で学び共に考えたことの実践実証として企業訪問および可能性(入社の可否)を含めたインターンシップの実現を目指す。  
2対象企業に対する面談、ヒアリングの要点についてQ&Aのシミュレーションを行う。

■キャリアアドバイス講座(9)では、  
1対象企業に対する面談、ヒアリングについてどうであったか。  
・求人企業情報と現状の分析(建設関連業界の不況の影響は)?  
・企業の中途採用に対する考え方や方針はどうか?  
・企業方針と価値観が共有できそうか?  
・人生設計とやりがいを感じられるか?  
・企業情報の「信条」と現実の中身とのギャップはどうか?  
・不況の影響に対して本音はどのように対応策を考えているか?

■キャリアアドバイス講座(10)では、  
1経営環境が変化しても顧客満足(感動)度を追求し続けることができること、価値判断がぶれない競争力のある企業を選び、係わり合いをもちたい。  
2企業の考え方と自分の生き方が一致すること(価値観の共有)を求める。  
上述内容がキャリアアドバイス講座である。  
成果:会社に勤める際、社員および顧客と価値観の共有が重要であることがわかった。  
また、仕事に対しての考え方、気持ちの持ち方について学ぶことができた。

■「施工法一般」の講座については  
・社団法人建築業協会関西支部発行のイラスト「建築施工」による疑似体験  
・2級建築士、施工管理士の問題にて知識レベルを確認し深める。  
・実施の流れを施工ビデオにて全体の流れを確認し自分としての感想を述べる。

#### 施工管理講座第1回

- 1 仮設・地下:杭打設、地下掘削。
- 2 地下躯体:地下躯体施工、1階床打設、地下躯体準備。
- 3 地下躯体:鉄骨製作建方、地上SRC躯体施工。

#### 施工管理講座第2回

- 1 仕上(躯体工事より仕上工事へ)、防水、内装仕上、外装仕上。
  - 2 設備、施工(設備工事、インフラ接続、足場解体、外構)
  - 3 施工ビデオ(地下施工):学んだキーワードを軸に全体の流れを確認する。
- 成果:基礎知識がしっかり学ぶことができた。現場作業の流れ、安全作業の大切さ、種々の施工方法を学ぶことができた。

#### ■建設車両系技能資格

「建設車両系技能資格」取得実技訓練を8日間にわたり富士教育訓練センターで実施した。  
成果:ただ単に機械の操作方法を学ぼうという姿勢ではなく、操作練習の段階から、どのような状況で役立つ動きなのかと理解しようとしていた。その一方で、実際には操作をしながら、どのポイントに安全の意識を持っていけばよいかなど、安全な操作に対する姿勢も見られた。

#### ■施工法一般(CAD実習)

CADは初めてと言う事で、講義の後も各自で練習が簡単に出来るようにCADソフトとしてダウンロードが無償で手に入るJW\_CADを用いて実習した。また教材として「やさしく学ぶJW\_CAD」((株)エクснаレッジ)を用いた。具体的講義内容を示す。

#### 施工法一般(CAD実習)第1回

- 1 CADの操作、線の引き方、線の処理、伸縮及びコーナー処理(レイヤー・グループ・線種・線色・他のCADとの違い及び比較説明)。
- 2 敷地測量図の書き方。木造の平面図コピー(用紙の決め方、グリッド(通芯)の書き方、線種・線色の決め方説明及び実習)。

#### 施工法一般(CAD実習)第2回

- 1 敷地測量図を書く。複雑な敷地測量図をコピーする。
  - 2 平面図のコピー(データの取り出し及び取り込み)。
- 成果:図面を書くのに必要な手順、また、定められた条件の中でできる限りの希望に添える設計をすることなど設計の基本を学ぶことができた。

### 3 講座の実施

第1回実施委員会 平成20年7月19日(土)

第1回技能資格WG //

第1回講座WG //

第1回育成WG //

ハローワーク横浜で受講者募集 平成20年7月22日(火)～8月1日(金)

浅野工学専門学校において受講希望者面接、講座説明 平成20年8月2日(土)

連絡会議(ユースポート横浜) 平成20年8月4日(月)

キャリアアドバイス講座(1) 平成20年8月4日(月)

// (2) 平成20年8月8日(金)

建設車両系技能資格取得講座 平成20年8月20日(火)～8月26日(火)

連絡会議(富士教育訓練センター) 平成20年8月25日(月)

キャリアアドバイス講座(3) 平成20年9月6日(土)

講座(4) 平成20年9月13日(土)

// 講座(5) 平成20年9月20日(土)

連絡会議(ユースポート横浜) 平成20年9月17日(水)

第2回実施委員会 平成20年9月22日(月)

第2回技能資格WG //

第2回講座WG //

第2回育成WG //

キャリアアドバイス講座(6) 平成20年9月27日(土)

施工法一般(1)講義1 平成20年10月4日(土)

施工法一般(2)講義2 平成20年10月11日(土)

連絡会議(富士教育訓練センター) 平成20年10月25日(土)

施工法一般(3)CAD実習1 平成20年10月18日(土)

施工法一般(4)CAD実習2 平成20年10月25日(土)

キャリアアドバイス講座(7) 平成20年11月8日(土)

キャリアアドバイス講座(8) 平成20年11月15日(土)

第3回実施委員会 平成20年11月17日(月)

第3回技能資格WG //

第3回講座WG //

第3回育成WG //

キャリアアドバイス講座(9) 平成20年11月22日(土)

// 講座(10) 平成20年11月29日(土)

連絡会議(修成建設専門学校) 平成20年12月20日(土)

第4回実施委員会 平成21年1月19日(月)

第4回技能資格WG //

第4回講座WG //

第4回育成WG //

連絡会議(中央工学校OSAKA) 平成21年2月9日(月)

連絡会議(ユースポート横浜) 平成21年2月18日(水)

連絡会議(浅野工学専門学校) 平成21年2月20日(金)

事業報告会 平成21年3月4日(水)

1. 平成20年度「実績報告書による事業報告」

2. 講演:「若者の再チャレンジへのキャリアアドバイス」

講師:大平延行氏

所属:職業訓練法人 富士教育訓練センター

#### 4 支援対象者(受講者)の状況

##### 若者と建設について

##### 1. 若者について

##### 部活動・サークル活動との関係性

これまで若者と話してきた中で学生時代の部活動・サークル等の関わりについて聴くと、

- ・体育系に所属していた
  - ・文化系部活・サークルに所属していた
  - ・どの部活・サークルにも所属してこなかった
  - ・所属していたが馴染まず、すぐに辞めた
- という答えがそれぞれ返ってくる。

部活動・サークル活動に参加した者の多くは集団での活動をこれまで経験してきており、上下関係がある環境にどちらかと言うと馴染んできている。しかし、一方で部活動・サークル活動に参加してこなかった者や馴染まずに辞めてしまったという者は、集団で何かを達成する機会や縦のつながりをつくる機会になかなかめぐり合うことができなかったと話すが多い。

##### キャリアアップよりも「できること」への追求

相談を受けていると、自己肯定感がもてない若者が多い。彼らは職場においても家庭においてもまわりからのプレッシャーを感じ、それに耐え、自分の今の立場は何としてもキープしなければならないと考えている。自分の立場を維持するためには失敗が許されないという状態になり、そのため「自分のやりたいこと」というよりは、今の自分が「できること」を選び、なるべくなら責任が発生しない、失敗の少ないだろうと思う職を選ぶ傾向にある。そういった傾向にあるため、この仕事に就いて自分はこういうようなことを学んでいきたい、キャリアアップをしていきたいという発想はなかなか出にくくなってきている。

つまり、～を学んでキャリアを積んでいくということよりは、その仕事果たして自分にできることなのか、そうではないのかということが判断基準となっている。そして、働いたあとは「失敗するとクビになるのではないか」、「失敗すると二度と働くことができないのではないか」、という不安を常に抱えながら働いている。

##### 2. 若者から見える建設業界

若者が「建設」という分野で理想するのは、ガテン系であり、日給のところが多いいのではないかとことである。それは、求人雑誌や新聞の折込チラシなどの求人欄を日頃からよく見ている業界の一部分しか見れていないからである。また建設業に携わったことがある経験者からの「3K」という評判等を聞いて最初から選択肢に入れない者もいる。さらに言うと、メディアの影響も大きい。2005年の姉齒事件の記憶がまだ染み付いていて建設業に携わるリスクを感じている者も少なくない。

しかし、一方で「手に職をつけた」というニーズは高い。姉齒事件後にそれを受けて建設業界はどのように変化していったのか、今野建設業界をきちんと見せていくことで、建設業にチャレンジしてみようと思う若者の数は増えるかもしれない。

##### 3. 段階的なステージが足りない

若者が社会に巣立っていく過程で、段階的なステージがきちんと整っているかと言うと、そこはまだ整っていない状態である。例えば、ある若者が建設業に関心を持った時、どのような手順でその職に就くことができるのか、そういった情報がなかなか得られないのが現状である。

行政のサービスは、「ひきこもり」から「就労へ一歩踏み出す」というところまでのサポートは年々充実してきており、段階的なサポートが整ってきている。若者側から見ると、若者自身が自分の状況に合ったところを選べるようになってきた。

しかし、それらのサービスを段階的に受けきて「よし、就職しよう」とエネルギーの溜まった若者が次に向かう先は、ハローワークや公共職業訓練などである。それは必ずしも彼らの状況に合ったステージとは言えないことが多い。彼らが望む、「職に就く前に実践的なことを学ぶことができる」そういったステージが欠けている。昨今、OJTで若者を育成しようとする企業が少しずつではあるが、就労支援施設と連携をしている。そういった民間企業の取り組みと行政のサービスがさらに連携していくことで若者が社会に巣立つ段階的なステージが創出できると考える。

##### 4. まとめ

社会では、若者が生きてきた時代・社会背景を無視した「自己責任論」がまだまだ根強く残っている。しかし、自己責任の部分だけを押し付けて若者が自立していけるかと言うとそれは非常に困難なことだろう。今考えなければいけないのは、前述したような段階的なサポートであり、若者が仮に失敗してももう一度学び直すことのできる「再挑戦できる社会」をどうやってつくっていくかということである。建設業界においても「業界の今を伝えること」と「再挑戦できる仕組み」を考えていくことによって若者の興味・関心はさらに高まっていくのではないかと考える。